【広告記事】 尿ケアの常識が変わる！

“これ！”探していたのは“タイムシフト”

高齢化が進む日本社会で、排泄ケアは大きな課題となっている。紙おむつによるゴミの増加、介護現場の負担、外出をためらう高齢者の孤立。そんな中、「尿を肌に触れさせずにため、必要なときにトイレで排出する」という新発想で登場した製品「タイムシフト」が注目を集めている。利用者の声は「人生を取り戻した」とまで表現するほど。その実像を、体験者の証言から追った。

■高齢化が抱える排泄ケアの課題

日本では年間約70億枚もの紙おむつが廃棄されていると推計される。これは家庭ゴミ全体の約６．５％に相当し、環境問題としても見過ごせない。また、介護現場では「排泄介助」は最も負担の大きいケアの一つだ。夜間の巡回や交換作業は職員の心身に重くのしかかり、在宅介護の家族にとっても大きなストレス要因となっている。さらに、本人にとっては「外出中の不安」「においや交換の手間」「プライドの損失」が日常生活の制約となり、社会参加を妨げてきた。

こうした課題に対し、タイムシフトは従来の「吸収型」から「ためて流す」方式へと大きく舵を切った製品である。

■製品の仕組みと特徴

タイムシフトは、男性用の尿ケア製品として開発された。専用アンダーウェアに装着し、尿が肌に広がることなく内部で分離・保持され、必要なタイミングでトイレで排出できる。「標準タイプ」と「スリムタイプ」の2種類があり、利用者の体格や生活スタイルに応じて選択可能。

ここで重要なのは、紙おむつのように吸収し続けるのではなく、「ためて流す構造」で長時間の利用に対応している点だ。

朝に装着すれば、外出・デイ滞在・リハビリ・帰宅まで、交換の必要なく快適に過ごせる設計となっている。

また、一般的な快適性を保てる目安として「排尿2回分または約３００ｍｌ」とされているが、実際には１Ｌ程度でも保持が可能。これはあくまで歩行時の快適さを基準にした目安であり、漏れや臭いの心配はほとんどない。衛生や形状保持の観点から原則1日使い切りとされるが、環境への配慮と介護負担の軽減、本人の尊厳保持を兼ね備えた新しい選択肢として注目されている。

■体験者の声――暮らしを取り戻した人々

◇映画館で最後まで座れた（東京都・Ｈさん／70代男性）

公式サイトで紹介されているＨさんの体験によると、一回で装着でき、しかも、もれずに排尿できたことで、今後は安心して映画を見に行くことができると感じたそうです。周囲の目や迷惑を気にして外出を控えてしまう人にとって、このＨさんの声は、「もう一度、行きたい場所に行ける」という日常を取り戻すきっかけに繋がると思います。

’朝’装着して’夕方’まで
’夜’装着して’朝’まで
外出も・安眠も出来る「心地良さ」

◇花火大会でも安心して過ごせた（東京都・Ｎさん／40代男性）

花火大会中の交通整理時に使用した際、タイムシフトが膨れても重さなどあまり気にならず、アンダーウェアもマジックテープで強くしっかり固定され安心感ありで良かったとコメントされています。

タイムシフトはこのような長時間の立ち仕事でも「強い味方」になると思います。

◇ウォーキングの快適さを実感（長野県・Ｓさん／60代男性）

Ｓさんは、パッド使用時の濡れ感が不快で歩くことが苦痛だったが、タイムシフトに変えてから長時間歩いても快適に過ごせるようになったと紹介されている。交換やゴミの心配も減り、「歩く楽しさを取り戻せた」というコメントには、製品がもたらす安心感がにじむ。

◇手術後でも旅行を再開（神奈川県・Ｏさん／70代男性）

Ｏさんのケースでは、前立腺手術後の尿漏れで外出や旅行を控えていたが、タイムシフトの使用により長時間の観劇やドライブなども再開できた。「次はゴルフにも挑戦したい」と語ったというコメントには、再び前を向く力強さが感じられる。

◇介護現場からの証言（介護事業者・Ａさん）

介護現場の声として、Ａさんのコメントも紹介されている。装着は20秒ほどで完了し、排尿時の漏れもなく、利用者からは「もう付いているの？」と驚かれることもあるという。自然なフィット感に加え、介助の負担軽減にもつながり、「尊厳を守りながらケアできる点に価値を感じる」との言葉が印象的だ。

■課題と改善の余地

Ａｍａｚｏｎのレビューでは「装着に慣れるまで手間取る」「動くとずれることがある」といった声もあった。しかし同時に「柔らかい素材で違和感がない」「仕事中も安心して使えた」といった肯定的な感想が多く、慣れれば日常生活に自然に溶け込む製品であることがうかがえる。

こうした課題への対応が進めば、さらなる普及が期待できるだろう。

■専門家の視点

高齢社会を研究する専門家は次のように語る。「排泄ケアは介護の中でも最も身体的・心理的負担が大きい分野です。タイムシフトのように〝本人が自立的に扱える仕組み〟が広がれば、介護者の負担軽減だけでなく、高齢者の社会参加や生活の質の向上にも直結します。また、臭いを気にせず人と関われるようになることで、認知症やフレイルの抑制にも寄与する可能性があります。」

■未来への展望

タイムシフトはまだ新しい製品だが、利用者の体験談が示す通り、その可能性は大きい。「外出を諦めていた人が再び旅行へ」「夜間の介護負担が軽減され、家族が安眠できる」。一人ひとりの生活を変える力が、この小さな製品にはある。快適性・安心感・尊厳を守りながら、介護と生活の境界をやわらげていく。排泄ケアの進化が、人と社会をつなぐ新しい希望を生み出している。

■詳しいお問合せ・ご注文窓口はおうちデイ新聞田村まで←←←

タイムシフト、国際福祉機器展で注目集める

10月8日から10日まで東京ビッグサイトで開かれた「第52回国際福祉機器展」において、イントロン・スペース株式会社の排泄ケア製品タイムシフトが出展され、多くの来場者の関心を集めた。

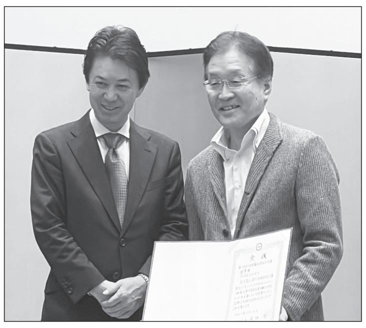
会場内のセミナーでは、従来の紙おむつとは異なり「尿が肌に触れない構造で一時的に保持し、必要なときにトイレで排出する」という仕組みを紹介。パッドやおむつを初めて使用する際に多くの人が感じる「尿が肌に広がる不快感」を解消する点が特長として説明された。環境負荷の軽減や介護負担の減少、本人の尊厳保持につながる点も強調された。

実際に製品を手に取った参加者からは、「介護士なら誰もが経験している夜勤明けの『尿の海となっているベッド』が無くなる」「これならご家族が夜眠れる時間が増えそう」「清拭には限界がある。でも打つ手がなかった。」「父と母に帰ったら伝えます」などといった声も聞かれた。他にも介護現場の関係者だけでなく、行政関係者からの質問も寄せられ、関心の高さを示す場となった。

展示ブースでは、実際の商品や体験者の声等がパネルや動画で紹介され、注目を集めていた。

タイムシフトは、家族を含めた介護者の負担軽減と自立排尿支援を両立させる製品として、今後益々期待が高まっていくだろう。臭いを気にせず人と会話できることで、認知症やフレイルの抑制にもつながるなど、社会的意義の大きさも注目されている。

（取材／田村）



「第７回 荒川区新製品・新技術大賞」
にて優秀賞を受賞
滝口　学・荒川区長（左）
今井茂雄・イントロン・スペース株式会社
共同創業者 兼 代表取締役（右）

タイムシフト
主な受賞歴一覧

第7回荒川区新製品・新技術大賞
優秀賞を受賞（2025年3月）

令和6年度モノづくりブランド
ara!kawa
荒川区「ara!kawa」認定商品として選定

東京TASKものづくりアワード2024
台東区・荒川区・葛飾区合同
ものづくり新製品コンテスト優秀賞

スタートアップ
ビジネスプランコンテストいしかわ
「最優秀起業家賞」を受賞。（石川県）